



朝風

No.20

令和8年3月9日
朝日中学校通信



朝日中 HP 二次元コード

☆令和7年度 第36回卒業式 式辞より



(前略)…そんな皆さんの新たな門出にあたり、未来への餞(はなむけ)の言葉を贈りたいと思います。

一つ目は、羅針盤は「自分らしさ」、心の声に耳を澄ませて、ということです。

この学び舎で培った個性という原石は、「自分だけの羅針盤」です。これから進む道は様々ですが、どうか周りの風潮に流されず、自分の心の声が見出す方向を信じてください。「自分にしかできないこと」「心から好きだと思えること」。それらを見つけ、まずは行動し

ましょう。挑戦しなければ、新たな可能性の扉は開きません。自分らしさを羅針盤に、未来という名の未知なる大地を、力強く切り拓いていってください。

二つ目は、絆こそが「希望の光」、感謝の心を忘れないで、ということです。

皆さんが今日、ここにいるのは、あなただけの力ではなく、家族、先生、友人、そして地域の方々。数え切れないほどの温かい支えがあったからこそです。その「当たり前」ではない温もりと、深い感謝の気持ちを、常に胸の真ん中に持ち続けてください。人生には、喜び溢れる晴れの日もあれば、嵐の日もあります。そんな時、皆さんの支えとなるのは、純粋な「人との温かい結びつき」です。新たな出会いを大切に、互いに助け合い、分かち合うことの尊さを、今後も経験していってください。その絆こそが、どんな暗闇をも照らす「希望の光」となります。

三つ目は、変化こそ「未来」そのもの、しなやかに、力強く歩み続けて、ということです。

皆さんがこれから生きる社会は、今とは比べものにならないスピードで変化していきます。AIが進化し、「言われたことをこなす」仕事は過去のものとなるでしょう。求められるのは、「あなたは何をしたいのか」という、自ら問い、考え、創造する力です。十年後、二十年後の世界は、想像もつきませんが、恐れることはありません。この中学校で育んだ「未来で生きる人間力」は、そのための確かな土台なのです。学び続ける探究心、困難を乗り越える忍耐力、そして多様な価値観を受け入れる寛容な心。これらを胸に、どのような時も、自分らしく前を向いて歩み続けていってください。

さあ、いよいよこの学び舎を離れ、夢へと続く遙かな道を歩み始める時が来ました。この朝日中学校で分かち合ったかけがえのない経験と誇りを胸に、堂々と前進してください。

最後になりますが、卒業生の皆さんの未来が、希望に満ちた輝かしいものであることを、心より願っています。

卒業、本当におめでとう。



令和八年三月六日

朝日中学校長 野間 達也

☆教育長告辞

(前略)…卒業生のみなさん、皆さんが過ごした中学校の三年間は、社会が大きく変化した時代と重なりました。AIやテクノロジーが急速に進化し、私たちの生活や働き方は、これまでの常識が通用しないほどのスピードで変わり続けています。例えば、文章を作ったり、絵を描いたり、外国語を翻訳したりするAIが、今では誰でも使えるようになりました。医療の現場では、AIが病気の兆候を見つける手助けをし、農業ではドローンが畑を見守り、工場ではロボットが人と協力して働いています。皆さんが大人になる頃には、今はまだ存在しない仕事生まれ、逆に当たり前だと思っている仕事が姿を変えているかもしれません。

しかし、どれほど時代が変わっても、未来を切り開くのは「自分で考え、選び、行動する力」です。AIがどれほど賢くなっても、皆さんの「好奇心」や「ひらめき」、そして「人とつながる力」は、決して代わりのきかないものです。

同時に、今の社会は多様な価値観が交わり合う時代でもあります。国籍、文化、考え方、得意なこと、苦手なこと。人はそれぞれ違い、その違いが社会を豊かにしています。学校生活の中でも、皆さんはそのことを実感してきたのではないのでしょうか。意見がぶつかることもあったでしょう。グループでの話し合いで、なかなかまとまらず苦労したこともあったかもしれません。

しかし、違う意見に耳を傾け、対話を重ねることで、より良い答えにたどり着いた経験もあったはずですよ。

自分と違う考え方に出会ったときこそ、成長のチャンスです。対話を通して新しい視点を得ることが、これからの時代を生きる大きな力になります。

そしてもう一つ、皆さんに伝えたいことがあります。それは、「自分の『好き』を大切にしてほしい」ということです。これからの社会では、決まった正解の道はありません。進路も、働き方も、生き方も、一人ひとり違っていいのです。むしろ、違うことが価値になります。例えば、絵を描くことが好きな人が、デジタルアートの世界で活躍するかもしれません。人と話すことが好きな人は、地域の人々をつなぐ役割を担うかもしれません。『好き』は、努力を続ける力になります。『好き』は、困難に立ち向かう勇気になります。そして『好き』は、皆さんだけの未来を形づくる大切な種です。どうか、周りとは異なるのではなく、自分の心が動くものを大切にしてください。その『好き』が、皆さんをどこまでも連れていってくれます。(中略)

最後に、卒業生の皆さんがこれから出会う人々と力を合わせ、より良い社会をつくっていってくださることをご祈念申し上げまして、朝日町教育委員会の告辞といたします。

令和八年三月六日

朝日町教育委員会

教育長

坂口 喜久夫



☆卒業生答辞

今年度の卒業式も厳かな空気の中で進み、終盤は感動的な合唱が体育館内に響き渡り、素晴らしい式となりました。ここで、卒業生からの答辞を一部抜粋してご紹介します。

(前略)在校生のみなさんに、私たちから伝えておきたいことがあります。それは、「仲間を大切にしてほしい」ということです。「信じられない」と愚痴を言うのではなく、自らが、仲間を信じることから始めてください。そうすれば、きっと仲間は、自分のことをわかってくれます。信じてくれます。そして、どんなことも、「できない」とあきらめるのではなく、粘り強くチャレンジしてください。そうすればきっと後悔しません。朝日中を、仲間を信じ、チャレンジする生徒で、あふれる学校にしてください。

この三年間、いろんな経験をしてきました。楽しいことばかりではなく、辛い時もありましたが、私たちが充実した学校生活を送れたのは、たくさんの人たちが、寄り添い、支えてくださったお陰です。(中略)

最後になりましたが、私たちの歩みを支え、見守ってくださったすべての方々に感謝し、朝日中学校が、これからも笑顔はじける場所であることをお祈りして、答辞といたします。

